

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	周 新慧
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 『聊齋志異』と江戸小説			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	佐藤 利行	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	本田 義央	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	川島 優子	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	張 秀強 (広東外語外貿大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、中国清朝の蒲松齡 (1640～1715) の『聊齋志異』と我が国の江戸小説 (戯作) との関連について考察したものである。論文は、序章、第一章『聊齋志異』伝来の初期一政治論理を付与した怪異譚について一、第二章『邂逅物語』と「大男」一妻妾易位の妬婦譚を中心に一、第三章「曲亭馬琴と『聊齋志異』一『押絵鳥痴漢高名』と「書痴」の比較を中心に一、第四章「蓮香」翻案の系譜一「狐精鬼霊冤情を訴ふる話」と『棲重思乱菊』を中心に一、第五章「『みめより草紙』と「瑞雲」の比較研究一醜女変身の物語一、第六章「小枝繁の『景清外伝』における「崔猛」の影響について」、終章の全八章から構成されている。</p> <p>序章では、本研究の動機・目的を論じ、先行研究について分析した上で、本研究の意義、研究の方法について述べる。</p> <p>第一章では、都賀庭鐘の前期読本『莠句冊』と森島中良の江戸初期読本『風草紙』を中心に、『莠句冊』の第三篇「求塚俗説の異同、塚神の霊問答の話」と『聊齋志異』の「恒娘」との関連性、『風草紙』における作者の改作意図について検討している。『聊齋志異』伝来の頃、すなわち寛政の改革の初期段階では政治批判の意図は見られず、政治的色彩の強い後期とは異なる特徴がみられることを指摘する。</p> <p>第二章では、雲府観天歩の『邂逅物語』の翻案手法について、『聊齋志異』の「大男」と比較検討している。世の中の無常観を説くという手法の「大男」とは異なり、『邂逅物語』は人物の性格の善悪を区別して、因果応報と勧善懲悪の観念を強調する教訓譚であることを検証する。</p> <p>第三章では、曲亭馬琴の『押絵鳥痴漢高名』を取り上げる。馬琴は『聊齋志異』の「書痴」の翻案において、従来のは典拠をそのまま踏襲するのに対し、作品の前半部分を馬琴自らが創作している。そこには、『聊齋志異』の大枠は借りながらも、筋立てと人物造形は自らが創作するという馬琴の巧妙な翻案手法を確認することができることを述べる。</p> <p>第四章では、『聊齋志異』の「蓮香」、『怪異前席夜話』の「狐精鬼霊冤情を訴ふる話」と『棲重思乱菊』を比較検討する。関亭伝笑の合巻『棲重思乱菊』は、『聊齋志異』「蓮香」の翻案である。</p>			

それは『怪異前席夜話』第二話「狐精鬼靈冤情を訴ふる話」と同様に、主人公と異類女性との関係を描く内容であるが、難解な漢字を多用し、文を主として画を従とする『棲重思乱菊』は大衆読者への配慮が十分でないこと、翻案作品には新たに仇討ちという因子を加えている点など、趣向が異なっていることを指摘している。

第五章では、笠亭仙果の合巻『みめより草紙』と『聊齋志異』の「瑞雲」とを取り上げ、「瑞雲」に見られる知己への愛の謳歌という趣向を容貌よりも心の美を重要視するという教訓的な内容に改作していることを明らかにしている。

第六章では、小枝繁の『景清外伝』季頼の件は『聊齋志異』「崔猛」を踏襲して翻案したものであることを論述する。そこには大枠としての「景清もの」に「崔猛」の要素を加えることによって、新たな景清像を作り出そうとした意図が読み取れるとする。

終章では、本研究で明らかとなった点をまとめ、併せて今後の課題について述べる。

以上、述べたように、本論文は『聊齋志異』が江戸時代に如何に受容されていたのか、という点について、江戸小説（戯作）との関連を丁寧に論述したものである。翻案の状況、政治との関わり、我が国における中国文学受容史の中での『聊齋志異』の位置づけ等々、残された課題も有るが、今後の研究の発展が期待できる論文として十分に評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)